

鏡は先に笑わない



冬の風が校庭を渡る季節。先日、本校で開催した人権教育推進講演会の講師として、バレーボールU15日本代表選手団団長・清瀬市立清瀬中学校の小澤秋仁校長先生をお招きしました。小澤先生は、三宅中学校長として職責を果たされていた頃、私にとって公私ともに大変お世話になった方です。わずか一年間ではありましたが、三宅島の空の下で過ごした時間は、私に大きな影響を与えてくださいました。紙面では語り尽くせないほど貴重な一年間でした。

さて、講演の中で小澤先生は、サングラスの色によって世界の国旗がまったく違って見える例を示されました。同じものでも、どんな「眼鏡」で見えるかによって世界は変わる。人は、見えているつもりで実は見えていないことがある。教育に携わる私たちにとって、深く考えさせられる言葉です。

イタリア遠征でのエピソードも印象的でした。荒々しく見える現地の若者から、アジア人を揶揄するような声を掛けられた際の出来事です。周囲が警戒する中、小澤先生は毅然と、しかし柔らかく「Ciao！（こんにちは）」と返したそうです。アリーナへ向かう途中、毎日のように顔を合わせる若者たち。ある日、伝家の宝刀である「よろけながらのCiao！」を繰り出すと、彼らも思わず笑ってしまい「Ciao！」と。

こちらの見方と態度が、相手の反応を変える。色眼鏡を外さなければ、人の本当の姿は見えない。きっと、小澤先生は国籍や性別、年齢といった壁を一度脇に置いて、ちゃおっと思われた末の行動だったのかもしれない…。

握手や抱擁がなくても心を配り、相手を受け入れる気持ちがあれば、友好という利が生まれる！「さわらぬCome in 建った利あり！」と小澤先生はエピソードトークに余韻を残してお話しされました。（…体育館には静かな潮風が吹き込んできました）



さわらぬcome in

建った利あり

世界人権宣言第1条には「人は生まれながらに自由であり、尊厳と権利において平等である」と記されています。これは特別な場面だけでなく、教室や校庭で交わされる日常のやりとりの中にこそ息づく原則です。



小澤先生の講演では「自分の人権を守り、他者の人権を守るとともに、守ってもらえる人を育てる教育を」という力強いメッセージが語られました。人権を守る人間に育てることは元より。日々の行動を通して「人権を守られる人に育てる」視点も大切なのではないかと。

日本で古くから重んじられてきた挨拶、礼儀、整理整頓、姿勢。今、海外で評価され愛されている日本人アスリートたち。スポーツ界を無双している大谷選手をはじめ多くの選手の言動には、この土台が息づいているように思います。



三宅島の自然に育まれる子供たちは、一人一人が違う感性と強さをもっています。だからこそ私たち大人は、「見えない部分を見ようとする姿勢」「相手の正義に耳を澄ます態度」「互いに守り合える関係を築く心」を、日々の実践を通して示していきたいと思っています。

最後に、小澤先生の座右の銘を紹介します。

「鏡は先に笑わない」

こちらが笑えば、相手も笑う。こちらが心を閉ざせば、相手も閉ざす。世界も、子供も、人権も、私たちの姿勢をそのまま映し返す鏡のようなものです。三宅小学校が、「相手を尊重し、先に笑顔向け、いつでも手を差し伸べる大人がいる学校」であり続けたいと思います。

小澤先生の軽快なトークと共にあっという間に過ぎた1時間。その余韻に浸り、お^{ちゃ}茶をすすりながら、原稿を推敲しています。